校長通信 令和６年度１０号　令和６年７月１７日

和歌山市立河北中学校　校長　戸川定昭

≪市中体連夏の大会、連日熱戦が繰りひろげられています！≫

７月１３日、１４日、１５日の３連休で、バスケットボール、サッカー、陸上競技、ソフトテニスの大会が行われ、本校の生徒が健闘しました。天気は、３日間とも曇りもしくは小雨が降る状況で、屋外競技にとっては、暑すぎることもなく、どちらかといえば、プレーしやすいコンディションだったと思います。それでも、湿度が高く、選手にとっては、厳しい状況だったでしょう。そのような中、自分のプレーを精一杯しようと生徒たちは本当に頑張っていました。

敗れて涙する選手、勝って涙する選手、敗れても表情を変えない選手、敗れてもさわやかな笑顔をみせる選手などなど、それぞれ様々な表情を見せていました。３年生にとっては、最後の大会。３年間の様々な苦労や喜び、悲しみなど、色々な経験を積んできたことでしょう。県大会にコマを進めた選手は、それに向けて、引き続き頑張ってほしいと思います。惜しくも敗退した選手、もしくは試合に出場できなかった選手に私が言いたいのは、これまでの努力は決してむだではないということ。これからの人生に必ず役立っていくと思います。

子供たちの応援に会場に駆けつけていただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

来る７月２０日、２１日は剣道、２２日、２３日は卓球の大会があります。出場する選手の健闘を祈ります。

≪打って反省、打たれて感謝！≫

標記の言葉、以前にも校長通信で紹介したことがありますが、夏の大会のこの時期、再度、今号で紹介します。誰でも、剣道の稽古や試合で相手に打たれたら、悔しいと思うでしょう。しかし、その悔しいという気持ちだけで終わらせるのではなく、打たれたということは、自分に隙があるということだから、そのことに気付かせてくれた相手に感謝する気持ちをもとう、逆に自分が相手に打ち込んで１本を取ったとしても、自分が本当に正しい心と姿勢で打ち込めたか、常に謙虚に振り返って反省しようという教えが「打って反省、打たれて感謝」の意味です。

私はこの言葉が好きです。この言葉の意味を実感できているのも、中学校での試合の経験もあるからだと思っています。この言葉は、剣道以外の武道やスポーツにも言えることだと思います。勝ち負けだけの結果にだけとらわれるのではなく、勝っても、負けても謙虚に振り返り、その経験を人生に生かしてほしいと、切に願いながら、私は、試合場で子供たちを応援しています。先日の壮行会でも、その話をしました。

私自身、剣道の試合に出場しても負けることが少なくありません。負ければ悔しいし、自分を不甲斐なくも思います。しかし試合を見ていた方から、審判の旗があがらなかったけど、いい機会にいい技が出ていたとか、お互い競った面白い試合だったという声をかけてくれる人もいます。その人たちからの言葉をエネルギーに変え、「打って反省、打たれて感謝」の精神を忘れず、これからも精進していきます。